



静岡 陸協 会報

第 8 号 (2010年 3月 1日 発行)

静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠 1-14-31
吉野寿ビル 2 F
TEL・FAX 054-253-9801



「陸上王国・静岡」
永遠であれ
静岡陸上競技協会副会長
山下昌彦

人生の終盤を迎えようとしている。しかしこの終盤は歳月の上での一般的な区分でしかなく、本人は今まで通りの青年きどり、生命は永遠であるように思い、日々を過ごしている。今回、広報委員長から執筆を依頼され、自分自身が陸上競技に打ち込んだ三十八年間を振り返るのに丁度よい機会を得たと思ひ引き受けた。

今、回想すると我が国が敗戦した直後、陸上競技部を立ち上げた三人のバイオニア達がいた。伊藤菊造先生(磐田南)を筆頭に松島正吉先生(浜松商)・生駒定文先生(西遠女子)です。

昭和二十三年からインターハイが行なわれるようになって一回・五回・七回(磐田南)六回(浜松商)四回(西遠)が各々総合優勝しましたが、それ以外の

年も各種目での活躍があり「陸上王国・静岡」は全国に知れ渡ったのです。このバイオニアに憧れて沢山の指導者が育ってくるのですが、日本になれる人はなかなかおりませんでした。私も生徒達の夢を重ねさせてもらい伊藤先生の三回の優勝を越える目標を胸に秘めて頑張りました。伊藤菊造先生の優勝が三回で一番回数が多いから目標にしたのではありません。私が高校生の時に指導していたいた時の先生の人となり感銘を受けたからです。

私はハンマー投が専門でした。正月二・三日と鈴木英司君と練習をしたとお願ひしたところ快く許可をしてくれ二日間行動を共にしてくれました。お正月の三ヶ日をつぶしてしまったのですが、別れの時には「頑張れよ」と優しい言葉をかけてくれました。そして私のハンマー投は冬の練習が効いたのか、シーズンに入ると全国トップレベルの記録を連発。伊藤先生も大変に喜んでくれました。指導者にとって大切なハートを感ぜさせ菊造先生にまつわるエピソードを紹介

します。先生の指導はオールラウンドでしたが、初期の頃にはなぜかハンマー投の選手がおりませんでした。ある年、ハンマー向きの生徒が入部してきたのでしようね、先生は自分の指導に自信が持たなく奥の手を使ったのです。その当時日本一のハンマー投の指導者といわれていた日大の釜本先生の所に押しかけたのです。三人の生徒と十日分の米を担ぎ陸上部の合宿所に寝泊まりし、その上先生自身も練習に参加したとか。先生の凄さ、熱き情熱すべての面で感心させられました。釜本先生とは日対教戦でよく声をかけられ他校の生徒にも優しくかった。心からハンマー投を愛していたのです。その後室伏君を指導し世界的な選手を育てあげたのです。話を菊造先生に戻しますが、自分の経験のない種目を身をもって経験し指導するのですから日本一が多数輩出して当然なのですが、この合宿以後続々と優勝者を、入賞者を出されたのです。

三人の先生方の活躍があつて、静岡は日覚めが早く日本のトップレベルになったと確信しています。オレンジ旋風を巻き起こした静岡国体でも多くの指導者がヒートアップしている時に丁度重なり最高の大会となりました。そして東海地区の指導レベルが非常に高く、東海地区からの覇者が多かったことから、「東海を制するものが全国を制する。」と全国から恐れられたものです。競技力の低下は指導力の低下を意味するものだけでなく、その県の陸協の趨勢を現し、国体でその順位を競っているのだと思えます。各県陸協の陸上に懸ける情熱が最も大切だと思いますが、ジュニア部・中

学・高校・一般の競技者の純粋な夢を指導者にもっと真面目に考えて、自分の指導力を高める努力をするべきだと思えます。現状では一人の監督指導者につき五、六十人の部員はざらです。自分の得意種目以外は「わからない」で片付けられてしまっている。これでは子供達の夢はどいうなってしまうのでしょうか。陸協自身も考えなければなりません。小体連・中体連・高体連・大体連・実業団等が各々の範疇を大切にすることは当然のこと、自分の範疇から出て上下縦横のつながりを持つことも大変重要だと思います。なぜかという選手は階段状に成長し各々の部門で関連を持つからなのです。陸協は競技力が高いことが一番大切ですから、その為の施策には大きな力を使うところなのです。指導力の高い、熱意のある指導者の出てくるのを待つのではなく育てることが重要です。「陸上王国・静岡」は永遠でありたいと思う。その為には指導者同士の勉強会を持ちジャマイカを議論するとか、優勝はこうして成し得た等話し合う中でトレーニングに大切なヒントをつかめるのではないかと思う。指導者が個々の殻に閉じ籠もってしまつては自分の成長と共に子供達の成長もななくしてしまい、指導者自身の生きた証しも残らない。

今後も若い指導者たちにエールをおくり結びとしたい。



平成二十一年度静岡陸上競技協会活動報告・他

理事長 和田隆保

新型インフルエンザの流行で競技会開催に不安がありました。八月二日の第21回ジュニアクラブ選手権より、先日終了しました第10回記念静岡市町村対抗駅伝競走大会まで、主催・主管競技会は予定通り実施しました。八月二日に行いました第34回富士登山駅伝は悪天候のため競技内容を変更して実施、関係の皆様には大変苦勞をお掛けしました。九月二十日、県障害者スポーツ大会は、日本マスターズ競技大会開催のため本年はエコパで実施しました。十月十八日、第38回小学生陸上を草薙で行い好記録が続出しました。十月三日に開催された恒例の浜松中日カーニバルは、諸般の事情により本年第28回を最後に、惜しまれながら幕を閉じました。十一月七日、男子60回女子22回県高校駅伝は昨年続きエコパとその周辺道路において実施され、男子、浜松日体高、女子、三島北高が優勝し全国大会への出場を決めました。特に女子のゴール前の90mのデッドヒートは稀にみる激しいものでした。また、十一月に三重県で行われた東海高校駅伝の結果、藤枝明誠高も全国大会の出場権を獲得し、本県より三チーム出場といううれしい事となりましたが、京都での全国高校駅伝は残念ながら男子27位、44位、女子30位という結果でした。一週間後の十一月十四日、県中学駅伝を同じエコパとその周辺道路で実施し、男子は浜松龍玉中が八年ぶり四回目、女子は御殿場富士岡

中が五年連続の優勝を果たしました。十二月に山口県で行われた全国中学駅伝競走大会でも、亀玉中10位、富士岡中5位と健闘しました。中高の連携を切に望むところでもあります。第10回の記念大会を迎えた市町村対抗駅伝競走大会は、十二月五日に開催。新型インフルエンザや天候の心配はありましたが、本年も盛況のうちを終了し、市の部優勝、静岡市静岡A、三年ぶり三度目、町の部は長泉町が大会新記録で二年連続五回目の優勝を成し遂げました。区間新8、区間タイ1、繰り上げスタートは0という大変活気ある大会でありました。チーム数の減少、コースの変更など課題も多く抱えておりますが、大会趣旨が全うできるような努力していきたいと思っております。年が明けて二月、三月にかけ、室内棒高跳新居大会、第34回浜名湖一周駅伝、第6回浜松シテイマラソン、第35回静岡駿府マラソンが予定されています。是非成功裡に終了させたいと思っております。その他、八月十六日にJAAFアスリート発掘育成プロジェクト（日本陸連主催）をエコパで実施しました。十二月九日、第二回理事、専門委員長会議を静岡で開催しました。八月六日に名古屋で東海陸協主催の加盟団体法人化に関する説明会が開催され、日本陸連より説明がありました。法人化の問題は近々に行動を起こさなくてはいけなくなると思われます。

その他上位大会での県勢の活躍ですが、八月にドイツで行われた世界陸上競技選手権大会の男子やり投げに出場したスズキの村上幸史選手が三位に入賞し、この種目日本人初の銅メダルを獲得しました。また、十一月に中国で開催されたアジア陸上選手権でも優勝し、日本陸連アスレティックアワード最優秀選手に選ばれました。これまでの精進、努力に敬意を表すとともに、今後の活躍に期待するところでもあります。インターハイでは藤枝明誠高校が男子総合2位、原動力となった飯塚翔太選手の二〇〇m優勝をはじめとする大活躍が印象に残りました。多くの参加者を送り出した全日本中学生ですが、棒高跳で植松倫理君（浜松天竜中）が優勝。惜しいところで優勝、入賞を逃した種目も多く見られ、一層の奮起を望みます。全国小学生大会においては、女子走幅跳で天城帆乃香さん（浜松河輪AC）が5m14の大会タイ記録で優勝。その他多くの入賞者があり、将来が楽しみです。十月二日より新潟で開催された第64回国体は、男女総合4位、84点、女子総合9位、39点という成績でした。優勝者は、少年男子A一〇〇m、飯塚翔太（藤枝明誠高）、少年男子B走幅跳、松原奨（東海大翔洋高）、少年女子B一五〇〇m、木村友香（静岡籠上中）の三選手でありました。多くの選手が自己記録を出し、入賞者も多く、特に少年Bの活躍が目立つ将来への希望の持てる大会だったと思います。第28回都道府県対抗女子駅伝は、今年より皇后杯が授与されることになり、一月十七日、京都にて開催され、木村友香（籠上中）、田中結女（富士岡中）の二名の中学生選手が区間新を樹立、木村さんは「未来くん賞」も獲得しました。また、ふるさと出場の勝又美咲選手（第一生命）も9区10kmを区間2位、七人抜きの快走をみせ、高校生もよくつなぎ入賞へあと

平成22年静岡陸上競技協会総会開催
 1、日時 平成22年 2月27日(土)
 2、会場 静岡県体育協会 2F大会議場
 3、議事 平成21年度事業報告(各委員会報告)
 平成21年度会計報告
 平成22年度事業計画
 平成22年度予算計画
 その他



- ・ 一つの9位でゴールしました。広島の子都道府県駅伝でも、女子に負けない好レースを期待したいと思います。静岡陸上を元気にしたい。これからの目標に向かって邁進してまいります。会員の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。
- 第二回理事・専門委員長会議開催
 平成二十一年度、標記の会議が十二月九日、静岡市内のホテルで開催された。斉藤会長の挨拶・和田理事長の後期事業報告に続いて、次のような議題・報告事項がなされた。
- 議事事項
 ・ 全国都道府県対抗駅伝競走大会役員と選手選考について
 ・ 平成二十二年度大会日程案について
 ・ その他
- 報告事項
 ・ 第二十五回静岡国際陸上大会会計報告
 ・ 第六十四回国民体育大会（新潟）報告
 ・ 第十回県市町村対抗駅伝競走大会報告
 ・ 顕彰委員会報告
 ・ 各専門委員会報告
 ・ その他

県陸上略史(8) 陸上競技事始め(一)

参与 伊藤英一

運動会より芽生えた陸上競技

日本で最初に行なわれた運動会は、明治七年三月二十一日(一八七四年)東京築地の海軍兵学校の「競斗遊戯会」である。

静岡県での運動会について明治初年の新聞「大務新聞」を東京大学新聞研究所で調べたが明治十七年までには記事がなかった。最初の運動会の記事は、明治十八年四月十二日の記事であった。

記事は、静岡師範学校、静岡中学校の生徒二〇〇余名が静岡の中島海岸において旗奪りや綱引きをやったとあった。また次の週の新聞には、十八日浜松中学校が米津海岸で行なったとあった。東部の沼津中学校は十一月千本松原で行なったという記事もあった。

このように静岡県の運動会の最初は明治十八年度(一八八五年)であった。

この内容から遠足的行事であった。この運動会が陸上競技的に移行したのは二年後の明治二十年(一八八七年)であった。静岡中学校が明治二十年五月六日学校の運動場で生徒十名を一組として十九組の長距離競走をしたのである。

この運動会は完全な組織的運営であった。即ち教職員を役員として配置したのである。「指令」「司鐸者」「判者」の役員名である。指令は現在の「総務」で司鐸者は今のスターター、判者は審判員決勝審判員である。

指令は夏目秋蔵教諭と鈴木助手、司鐸者は河村、外山教諭、判者は平田、鈴木、

吉田の三教諭があたった。この運動会を文部省より視察官として石田、林両氏が視察に来たのである。この運動会を新しい型として画期的運動会であったと思われる。

この秋には師範と中学が合併で運動会を行い新しい種目として「幅跳」「高跳」「棒跳」が行なわれ、徒競走も距離制となり、三〇〇米(優勝望月豊太郎)五〇〇米(優勝白鳥延次)特別長距離走には優勝大木万三の名が残っている。

このように勝者を決める徒競走が地方に伝わり運動会が競走的になった。明治二十年三月二十日磐田郡西之島学校(現磐田市豊田南小)は天竜川河川敷で徒競走の運動会を実施している。十一月には安倍郡飯間小学校(現静岡市南薬科小)でも徒競走運動会を実施、新聞では山村には珍しいと書かれている。

静岡高等学校では明治二十二年十月二十七日(一八八九年)運動会において男子は「高跳」女子は「まり投げ」が行なわれ今のフィールド種目も運動会に入ってきた。この運動会を記事として「欧米的新型運動会」と書いている。

明治三十年一月六日(一八九七年)の師範附属小学校の運動会の徒競走には一〇〇ヤード、二五〇ヤード、三〇〇ヤード、四〇〇ヤード、六〇〇ヤードの種目が行なわれ、完全に実測距離的競走種目となった。

遠足的、興味本位的な運動会が約十年の間に競走的、体力的な運動会に移行したのである。

関係行政機関もこの運動会に賞品を出して奨励していた。静岡中学校の運動会

には県サイドより賞品が下附されていた。安倍郡賤機村の小学校においては近くの六小学校より選手二十名を出し対校的運動会が実施され、安東村村長伊東忠右エ門氏は全員に昼食を提供している。また一等優勝者には自ら賞品を与えている。一等より三等まで賞品を出したという記事は明治十八年十二月十三日の下田の豆陽中学校(現下田北高)の運動会に賀茂郡長が臨席し賞品を授与している。

支部便り

東部陸協一年間の活動を振り返って

東部支部理事長 望月紘一

今年の東部陸協の活動を、自分なりに振り返ってみたいと思います。まず、普及部においては西尾氏が各市町村の指導者と共に活気ある活動をしてください、頼もしい限りでありました。西尾氏の二人の子供さんは沼津西高校で神山先生のご指導の下、素晴らしいアスリートに育ち、姉の千紗さんは世界クロスカントリー日本代表として出場、実業団駅伝等でも大活躍をしています。西尾氏は子供たちの将来を見据えながら、小学生の指導を熱心に行ってくれています。

このように勝者を決める徒競走が地方に伝わり運動会が競走的になった。明治二十年三月二十日磐田郡西之島学校(現磐田市豊田南小)は天竜川河川敷で徒競走の運動会を実施している。十一月には安倍郡飯間小学校(現静岡市南薬科小)でも徒競走運動会を実施、新聞では山村には珍しいと書かれている。静岡高等学校では明治二十二年十月二十七日(一八八九年)運動会において男子は「高跳」女子は「まり投げ」が行なわれ今のフィールド種目も運動会に入ってきた。この運動会を記事として「欧米的新型運動会」と書いている。明治三十年一月六日(一八九七年)の師範附属小学校の運動会の徒競走には一〇〇ヤード、二五〇ヤード、三〇〇ヤード、四〇〇ヤード、六〇〇ヤードの種目が行なわれ、完全に実測距離的競走種目となった。

遠足的、興味本位的な運動会が約十年の間に競走的、体力的な運動会に移行したのである。関係行政機関もこの運動会に賞品を出して奨励していた。静岡中学校の運動会

中体連は吉原二中の原田先生が委員長として中心になり、大会場所を富士から沼津の愛鷹陸上競技場に移し、沼津市の小池先生たちと協力、電光掲示板を利用したりして、選手のためにさまざまな工夫を凝らし、大会を盛り上げてくれました。そんな中で修善寺中学の日吉君というスーパースターが誕生。東部では杉本選手以来の大型スター出現に期待が大きくふくらんでいます。彼を直接指導しているのは、自身も日大三高高校、筑波大学、そして三十代後半まで走り幅跳びの現役選手としてシャープなジャンプで常に県のトップで活躍してきた真野先生なのです。日吉君は、そんな良き指導者に恵まれ、自身も中学生としてやるべきことを確実に一歩一歩努力しており、将来が本当に楽しみな逸材となっております。

高体連は三島北高の小林一幸先生が委員長として率先垂範、元気のよい活動を展開してくれています。東部の高校の指導者は、故花崎隆司氏、故加藤晴一氏、そして田中清一氏という三人の全国レベ

ルでの優れた指導者たちを間近で手本に見てきていますので、指導の奥深さや日常練習の大切さ等、数々の教えが浸透し、共通の理解を持ちながら、着実な指導技術と能力の向上が得られていると確信しています。

大学生は沼津東高校出身で早稲田の堀池君がユニバーシアードに出場、富士宮北高校出身で東海大学の鈴木君が棒高跳びで世界選手権とユニバーシアードに出場しました。また、富士東高校出身で中央大学の大石君が全日本大学駅伝で、富士見高校出身で筑波大学の佐野さんが国体で活躍してくれました。

実業団は残念ながら、現在、壊滅状態です。今後の大きな課題となっております。スポーツクラブの設立などを本気で考える時期ではないかと思えます。

各市町の陸協については駅伝やロードレース、記録会や大会を企画し、立派な大会運営を行ってくれました。

最後に、私にとって一番大きな出来事は、元県陸協理事長であった深澤通之助氏のご逝去でありました。静岡国体当時、県の理事長として、強化委員長であった私を、力強くバックアップしてくれ、県の陸上競技の発展にとつて、多大なご尽力をいただきました。氏のご逝去は今後の陸上競技の発展にとつて計り知れぬ大きな損失であります。長い間のご貢献に深く感謝し、心からのご冥福をお祈り致します。



21年度中部陸上競技協会を振り返って

中部支部理事長 大塩 正則

スポーツ界を取り巻く環境も大きく変化した二十一年度でしたが、その中で中部地区の競技者も久しぶりに全国大会で大活躍してくれました。これも中部地区会員の皆様が日頃、選手達に暖かい声援を送り競技会運営にご尽力頂いている賜物と感謝申しあげております。

八月下旬に行われました全国小学生交流大会において静岡市陸上教室の地下陽美さんが走高跳びで三位に、千代田 A C の高橋砂里奈さんが八〇 m ハードルで五位に入賞。八月に大分県で行われた全国中学校陸上では、籠上中学校の木村友香さんが一五〇〇 m で準優勝、木村さんは八〇〇 m でも三位に入賞と見事な活躍でした。また、二〇〇 m では長田南中学校の杉山美優さんが六位に入賞しました。八月に奈良県で行われた全国総体で、男子学校対抗で藤枝明誠高校が準優勝、個人では飯塚翔太君が二〇〇 m で優勝、一〇〇 m でも準優勝し、また、砲丸投げでも鈴木郷史君が五位、四×一〇〇 m R では藤枝明誠高校（加藤、飯塚、法月、外村）が五位に入賞しました。また、同じ大会で東海大翔洋高校の松原奨君も走幅跳びで八位に入賞しました。

九月末から十月にかけて新潟で行われた第六十四回国民体育大会では少年男子 A 一〇〇 m で飯塚翔太君が一〇秒三八で優勝、少年女子 B 一五〇〇 m で木村友香さんが四分二三秒一で優勝、少年男子 B 走幅跳で松原奨君が七 m 二四で優勝と

県勢陸上陣が優勝した三種目のすべてが中部地区選手という成績をおさめました。

また、国体の席上、中部常任理事の佐藤常保先生が、長年ジュニア選手の指導並びに多くの優秀な選手を育てられた功績で秩父宮章を受賞されました。また、高山登先生も多くの優秀な選手を育てられた功績で河野謙三章を受賞されました。

新しい年が、更なる前進になるよう会員の皆様とともに中部陸上競技協会も進みたいと存じます。

西部支部事業報告

西部支部理事長 鳥井 啓市

二十一年度より和田隆保理事長の後任として、西部陸協の責務を引き受ける事になりました鳥井と申します。よろしくお願い致します。西部支部の役員、審判員の皆様には、日頃より各種大会に多大なる御協力をいただきましてありがとうございます。二十一年度を振り返りますと、まず第一に八月にベルリンで開催された世界陸上選手権にやり投で出場した村上幸史選手（スズキ）が銅メダルに輝いた事は特筆すべき朗報でありました。

さて、本年、西部支部の大会は、四月の第一回西部月例競技会に始まり、十一月の第三回西部月例競技会まで無事終了することが出来ました。そのなかで全国レベルの大会である「浜松中日カーニバル招待陸上競技大会」が今年度二十八回大会をもって終了する事となりました。この大会は長きに渡って、オリンピック、

～東北電力ビッグスワンスタジアム～



<新潟国体メイン会場>

世界陸上出場選手、インターハイ優勝選手など日本のトップクラスが参加していただいた大会であり、私はもとより西部陸協をもってしても誠に残念に思われます。そこで、来年度からは招待競技の継続はできませんが二十八年間続いた歴史ある大会ですので期日は同じ十一月三日（祝）とし、開場をエコパスタジアムに移し、形を変えての実施を計画しています。つきましては、県陸協、各支部の協力を是非ともお願い致します。

二十二年の大会も、一月に西部ロードレース大会、西部駅伝大会、二月には、中日浜名湖一周駅伝大会、浜松シティマラソンと続きますので、健康に留意され、様々な方面での御協力の程重ねてお願い申し上げます。

陸上、指導者講習会

(小学生指導者対象)

協会では、昨年十二月十三日静岡草薙陸上競技場において、県内の陸上スポーツクラブ・小学生指導者等を中心とした講習会(メデイカル・メンタルケア)を開催しました。講師に県陸協スポーツ科学委員長の高田均先生を招き、内容は骨格・筋肉のバランスの重要性について解説・実践、数々のパフォーマンスを交えての講習をしました。

受講者三十数名は、地元を中心に東部は伊豆方面からの参加者もあり、終日熱心に受講しました。また、同講師は海外経験も豊富で、今回は特別にUSAジュニアの指導法についても触れ、予定時間を超過するほどでした。

閉講後、石野吟策普及委員長は、今後本県の競技者底辺拡大の意味も兼ね、更に受講者の指導向上に期待をよせていると語りました。

(広報)



(講師・高田氏)

<担当 普及委員会>

各委員会便り

総務委員会

総務委員長になって初仕事が、平成二十一年度版要覧の発送業務からでした。おかげさまで四月上旬には完売しました。また選手登録も同時期から開始し、順調なスタートをきりました。

六月に第一回顕彰委員会を開催。議題は各表彰表について行いました。県陸協特別功労賞二名、同功労賞九名、日本記録樹立表彰一名、優秀選手表彰二名を選出し、七月の県選手権大会時に表彰を行いました。また同日、平成二十一年度日本陸連S級公認審判に昇格された十名の方々には委嘱状が手渡されました。

九月に第二回表彰委員会を開催。県小学生優秀選手・静岡新聞社、県体育協会表彰候補者の選出を行いました。

十一月に入り、平成二十二年度の要覧作成の準備を開始しました。年が明け一月から編集・校正作業をし、三月初旬には発行予定です。

(総務委員長 大社幸三)

競技委員会

平成二十一年度事業は富士山静岡空港開港記念・第二十五回静岡国際陸上をはじめとして暦年事業について、シーズン通して大きな成果を残して終了することができました。これら大会運営に携わっていただきました多くの関係者に対して厚く感謝と御礼を申し上げます。

さて、平成二十二年度は第二十六回静岡国際陸上を昨年同様に小笠山運動公園エコパスタジアムにて実施。東海国立大学対抗陸上(草薙)・県高校新人陸上(草薙)の主催・主管事業をはじめ、県陸協および支部陸協合わせて一一大会の暦年事業を計画致しました。これら大会が「強い静岡」の基盤につながるよう、格段のご協力をお願い致します。以下主要大会を記載します。

- 四月四日(日)日本平桜マラソン(草薙)、四月二十五日(日)第三十九回静岡リレーカーニバル(草薙)、五月三日(月)第二十六回静岡国際陸上(エコパ)、五月十五日(土)長距離記録会(エコパ)、五月二十八日(金)二十九日(土)静岡県高校総体陸上(エコパ)、六月十三日(日)第二十六回小学生交流大会(草薙)、六月二十六日(土)国体成年・少年予選会、六月二十六日(土)長距離記録会(エコパ)、七月三日(土)第二十四回中学選抜陸上(草薙)、七月十日(土)・十一日(日)第六十五回県陸上競技選手権(草薙)、七月十七日(土)・十八日(日)第五十六回県中学通信陸上、七月十八日(月)国体成年・少年予選会(浜松四ツ池)、八月一日(日)県ジュニアクラブ選手権(草薙)、八月二十二日(日)富士山クロスカントリー(こどもの国)、八月二十八日(土)第二十九回県ジュニアオリンピック(草薙)、九月十八日(土)県長距離記録会(エコパ)、九月二十五日(土)二十六日(日)県高校新人陸上(草薙)、十月九日(土)県中学新人陸上(草薙)、十月十六日(土)県長距離記録会(エコパ)、十月十七日(日)第三十九回県小学生陸上選手権(草薙)、十月二十三日(土)・二十四日(日)第十

強化委員会

三回東海高校新人陸上、十一月三日(祝)静岡エコパ陸上(エコパ)、十一月七日(日)県高校男女駅伝(エコパ)、十一月二十日(土)県中学駅伝(エコパ)、十二月四日(日)第十一回県市町駅伝(静岡)、二月二十日(日)第三十五回中日浜名湖一周駅伝、二月二十七日(日)浜松シティマラソン(浜松)、三月六日(日)第三十六回静岡駿府マラソン(静岡)

(競技委員長 加藤 松)

第六十四回国民体育大会(新潟国体)は、十月二日から五日間の日程で、新潟市東北電力ビッグスワンスタジアムで開催されました。斎藤会長、和田理事長をはじめ静岡陸協の皆様方の暖かい御声援と物心両面にわたる御協力によりまして、天皇杯第四位、皇后杯第九位というまずまずの成績を収めることができました。紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。

今年の大会は、優勝した三種目がすべて少年種目であったように、少年の活躍が目立ちました。特に少年男子の活躍は見事で、少年男子だけの得点では第一位の成績でした。大会一日目に走幅跳に出場した渡辺君(沼津東)のビッグジャンプでチームのムードが盛り上がり、飯塚君(藤枝明誠)や松原君(東海大翔洋)、木村さん(静岡籠上中)の優勝につながったように思います。また今年のチームには中学三年生が五人参加しました。高校生相手に堂々の横綱レースをした木村さんや、共通種目に出場して見事五位入

賞をした山田さん（棒高跳・天竜中）はもちろんですが、出場した全員が高校生を相手に健闘したことは、彼らのこれからの競技生活に大きな自信となることでしょう。参加種目は少なかつたのですが、社会人、大学生の存在も大きな力になっていました。世界選手権代表の鈴木崇文君がミーティングで、「世界選手権の代表以上に国体の代表になりたかった。」と言った言葉は、大変うれしく、頼もしく、それ以上に中学生に大きなインパクトを与えてくれ、改めて国体参加の意義を考えさせてくれました。

このような背景には、コーチ陣の丁寧的確な指導によって生まれた選手との信頼関係があったように感じます。毎年十二月から四回実施しているジュニア強化合宿や国体合宿などを通して、長い時間選手と接することで可能になったことです。コーチ陣の働きには感謝していません。

しかし改善していかなくてはならない点もいくつかあります。たとえば、社会人が競技に打ち込める環境の整備です。昨今の経済状況では、なかなか簡単にはいきませんが、県内出身の大学生が卒業後に競技を続けようにも受け入れ先がなく、せっかく高い競技力をもっている競技生活を断念せざるをえないのが現実です。毎年安定して天皇杯上位にいる県は、成年の得点獲得が多く、本県のように高校生頼みの県は、大会が始まってみないとどっちに転ぶか分からない不安定さがあります。他にも中学生の競技力の低下や指導者不足がありますが、関係団体と連絡をとりながら改善に努めていき

たいと考えています。

○国体関係の事業報告

選手選考会議 八月八日

第一次合宿 八月二十一日～二十二日

第二次合宿 九月五日～六日

第三次合宿 九月十九日～二十日

本大会 十月二日～六日

反省会 十一月十四日

（強化委員長 筒井計臣）

スポーツ科学委員会

総合的に考えて練習をし、試合に臨もう

講習会や試合時に、一年間を通して練習や試合の結果を出すためにどうすればいいのか分からなく悩んでいる指導者を多く見かけた。最終的には結果を望んでいると思うが、その選手の将来を考えて目標を立てることが望ましいと思う。選手育成に当たっては多くの内容が必要になってくるが、私は①技術（スキル）②練習内容③選手のケア（いわゆる身体的、精神的、人間関係、日常生活、傷害の対応などの内容が含まれる）の三つの項目が連動しながら進められていくことがモチベーションを高揚することに繋がると思う。二〇〇九年の十二月二十五日～一月五日、アメリカのテネシー大学で陸上競技のクリニクに参加してきた。この大学は、昨年全米の大学で総合優勝した大学で、コーチを受けたのは短距離、ハードル、走り高跳び、三段跳び、走り幅跳び、砲丸投げ、円盤投げ。技術が確立しているため練習内容が効果的に感じられた。もちろん中学生、高校生にも使える内容である。コーチはすべてプロフ

記録委員会

平成21年に樹立された記録一覧表

部	種目	性別	記録	選手	所属	記録値	大会	記録者	
【一般の部】	・東海新記録	(男子)	やり投	83m10	村上 幸史	スズキ	8,21	世界選手権	ベルリン
	・県新記録	(男子)	3000mSC	8'37"48	武田 毅	スズキ	6,25	日本選手権	広島広域
		(女子)	やり投	83m10	村上 幸史	スズキ	8,21	世界選手権	ベルリン
			やり投	60m84	海老原希	スズキ	4,11	国体	国体大会
	5000m		15'29"38	松岡 範子	スズキ	6,27	日本選手権	広島広域	
【高校の部】	・東海高校新記録	(男子)	200m	21"01 (+1.6)	飯塚 翔太	藤枝明誠高	8, 1	全国高校総体	鴻ノ池
		(女子)	やり投	48m37	金原 莉沙	袋井高	5,31	県高校総体	小笠山
	・高校県新記録	(男子)	200m	21"01 (+1.6)	飯塚 翔太	藤枝明誠高	8, 1	全国高校総体	鴻ノ池
		(女子)	やり投	48m37	金原 莉沙	袋井高	5,31	県高校総体	小笠山
【中学の部】	・中学東海新記録	(男子)	4×100mR (混)	42"87	マツナガ・日吉 矢川・久松	静岡県選抜	10,25	ジュニアオリンピック	横浜日産
		(女子)	4×100mR	48"62	杉山波・杉山優 植田・水野	静岡長田南中	8,11	東海中学	長良川
			1500m	4'23"11	木村 友香	静岡籠上中	10, 3	国体	新潟
	・中学東海タイ記録	(女子)	4×100mR	48"84	酒井・名倉 石田・諷訪	磐田竜洋中	8,11	東海中学	長良川
	・中学県新記録	(男子)	200m	21"71 (+2.0)	日吉 克実	伊豆修善寺中	7, 4	県中学選抜	草薙
			100m	10"86 (+1.3)	日吉 克実	伊豆修善寺中	8,11	東海中学	長良川
			4×100mR (混)	42"87	マツナガ・日吉 矢川・久松	静岡県選抜	10,25	ジュニアオリンピック	横浜日産
		(女子)	4×100mR	48"62	杉山波・杉山優 植田・水野	静岡長田南中	8,11	東海中学	長良川
			4×100mR	48"84	酒井・名倉 石田・諷訪	磐田竜洋中	8,11	東海中学	長良川
			800m	2'10"18	木村 友香	静岡籠上中	8,23	全日本中学	大分
			1500m	4'23"11	木村 友香	静岡籠上中	10, 3	国体	新潟
			円盤投 (中学最高)	33m19	佐藤 真緒	浜松天竜中	10,24	ジュニアオリンピック	横浜日産
	3000m (中学最高)	9'19"52	木村 友香	静岡籠上中	11,21	日体大長距離競技会	日体大健志台		
【小学の部】	・小学県新記録	(男子)	800m	2'15"60	有川 湧貴	浜松河輪AC	9,20	三島地区記録会	沼津
		(女子)	走幅跳	5m21 (+1.9)	天城帆乃香	浜松河輪AC	6,14	全国小学生交流県選考	草薙
			200m	26"92 (+0.5)	天城帆乃香	浜松河輪AC	9,26	秋季西部小学生	小笠山
	・小学県タイ記録	(女子)	走幅跳	4m87 (+0.4)	篠田 那帆	静岡葵AC	10,18	県小学生選手権	草薙

【外国人の部】 なし

(記録委員長 赤堀順一)

エッショナルなので常に研究している。だから教え方もうまい。

(スポーツ科学委員長 高田 均)

医科学委員会(新潟国体分析)

新潟国体に出場した高校生選手の

メンタルサポートについて

本番で、自分の実力を発揮できるように側面から支援することが、強化委員会の中のスポーツ科学委員会の役目になっています。今回も昨年に引き続き、国体直前(約一ヶ月前)の強化合宿に参加している高校生を中心に、気分診断検査(POMS)・気分の安定の状態を客観的に評価し、その信頼性係数は0.七八で、かなり高く、現在の自分自身の気分、感情に対する気づきを深めることができ、自分の気分のコントロール法を考えると(有効)と心理的競技能力診断検査(DIPCA3)(試合での精神力を心理的競技能力として十二項目に分けて捉え、それぞれの客観的指標から、練習や試合での事前対処法を考える)を測定。その結果をその場で直接選手に返した。

勝利意欲、自己実現意欲、自己コントロール能力などが極端に低い選手が三名ほど見つかり、その場で今後の対応策を選手と話し合った。原因を聞いてみると、フォームが一定していない、コーチにいろいろの助言はもらっているが、十二分に解決していない、気持ちに余裕がない、ケガから十分に回復していない、入賞できるかどうかとても心配などであった。

こちら側からは、現在の記録の九八%を出すことができれば、実力発揮したことになるので、その記録を算出し、各自に提示した所、これなら出せると言って、一応の安心感を持ってもらった。本番では、一名を除いて他全員が九八%以上の記録を出していた。この事は、選手本人の努力もさることながら、選手を直接サポートしたコーチ、トレーナー、役員の方々のお陰だと思っている。しかし、実力一〇〇%を出しても入賞できない現実があるので、中・高校生選手のモチベーションを上げ、より良い練習環境作りを私たち協会の皆さんで作りたい。出していかなければと思います。今回、ただ一回の測定だったのですが、次回からは、合宿に帯同して、より積極的に後方から支援をしていきたいと思っています。

(医科学委員長 伊藤 宏)

情報システム委員会

大型映像装置と電光掲示盤の活用

大型映像装置と電光掲示盤は、速い記録の発表に効果的な設備である。また陸上競技の観客や競技者からは、できるだけ使用して欲しいとの要望があった。

小笠山総合運動公園静岡スタジアム(エコパ)では、今年度は県障害者スポーツ大会が行われ、そこでライブ映像や結果の発表、お知らせなどを表示することで、特に聴覚障害者に効果的であった。それ以外にも様々な競技会で使用の要望があった場合には、できるだけ援助やアドバイスをを行った。

愛鷹広域公園多目的競技場では、陸上競技として電光掲示盤が使用されてお

ず、陸上競技でも有効活用したいとの要望があった。そこでソフト、ハード両面の援助を行い、現在では静岡陸協東部支部で全ての操作ができるようになって、多くの競技会で使われている。

草薙総合運動場陸上競技場では、平成二年に翌年の全国高校総体に向けて大改装され電光掲示盤が設置された。平成十二年に陸上競技運営用パソコンが更新され、順調に使われていたが、制御用パソコンがそのままだったので、次には制御用パソコンの更新をお願いしていた。平成十七年に突然陸上競技運営用パソコンが使いにくいものに変更され、制御用パソコンはそのままだったので、陸上競技関係者だけでなく、使用者は全て困っていた。今度これが更新されることになり不安が解消された。

(情報システム委員長 永田勝久)

審判委員会

今回は、審判委員会の活動の中で最も神経を使う「昇格」についてお話しさせていただきます。ご存知のように、現在のS級、A級、B級の三段階になったのは二〇〇二年からです。それまでの長い間、終身一種、二種、三種の四段階でその種別によって胸章が異なった色で識別されておりました。現在の、全国競技運営責任者会議にあたる、全国審判委員長会議にて大議論の末に決定されたことを今でも記憶しております。

現行制度の昇格条件を申し上げます。最初に取得するB級審判員は、高校卒業後審判講習会を受講し、審判登録手続き

をすればその資格が得られます。多くの都道府県で実施している、資格試験、B級取得のための講習会は実施しておりません。年度末に三支部で開催される審判講習会の折に、登録票の記入方法、競技会時の手続方法等の伝達を行っております。若い方々に是非とも受講していただき資格を取っていただきたいと思っております。

A級、S級の取得条件は次の通りです。

S級推薦基準		
・60歳以上		
・第1種(A級)取得後10年以上		
・5年間に30回以上、10年間に60回以上の出席		
・講習会をこの5年間で3回以上受講している		
A級昇格条件(県内審査)		
・50歳以上	・40歳以上50歳未満	・40歳未満
・第2種(B級)取得後10年以上	・第2種(B級)取得後10年以上	・第2種(B級)取得後10年以上
・5年間に30回以上、10年間に60回以上の出席	・5年間に35回以上、10年間に70回以上の出席	・5年間に40回以上、10年間に80回以上の出席
・5年間に講習会を3回以上出席	・5年間に講習会を3回以上出席	・5年間に講習会を3回以上出席

右の条件を満たしている方を各支部の委員長が選出し、委員会において審査をいたします。この委員会にて昇格候補者

ただき、最終確認を手帳の記載に基づき行います。この段階でS級候補者の資料は日本陸連に送られ再度審査を受けます。この審査に合格すると次年度よりS級に昇格いたします。A級においては同様の審査を我々審判委員会がいたします。

いずれにしろ、昇格の条件が厳しくなりました。審判員の皆様におかれましては、右の条件を御理解の上、審判活動を充実させていただければ幸いです。

(審判委員長 草野康二)

広報委員会

平成二十一年度役員改選により、本年度から委員を三名増員し、新メンバー九名で発足した。

三月下旬、県内各報道機関に協会要覧及び大会日程等を送付。

四月初旬から県・東海・全国大会の取材を開始。会報をとおして陸協関係者及び県内外の皆様へ情報提供をする。

五月、第二十五回静岡国際陸上競技大会(日本グランプリ第四戦)に関する業務を広報・事務局と協力し、事前・事後のメディア対応をした。

七月に入り会報第七号の原稿を関係者に依頼する。八月に編集会議・校正等をし、第七号を九月二十日に発行した。

また、年間四回、日本陸連機関誌(陸上競技マガジン5・8・11・2月号)に本県の主要大会及び県陸協活動状況の情報提供をしている。

十月下旬には会報第八号の原稿執筆を陸協役員・各専門委員会・陸上競技関係

者に依頼。第八号作業日程として、二月に編集・校正、二月下旬に印刷、三月初旬に第八号を発行。

(広報委員長 橋本美智夫)

中体連陸上競技部

一年間を振り返って

第三十六回全日本中学校陸上競技選手権大会は、「夢を追い、九州で輝く華となれ」のスローガンのもと、大分スポーツ公園九州石油ドームで開催されました。本県からは男子四十一名、女子五十名、計九十一名が参加しましたが、これは兵庫県に次ぎ、全国で二番目の多さでした。競技は、棒高跳で植松君(浜松天竜)が一位、戸倉君(袋井)が三位、木村さん(静岡籠上)が八百員は県記録で三位、千五百員は東海新記録で二位、佐藤さん(浜松天竜)が砲丸投で二位など延べ十二種目で入賞という成績でした。

また、横浜日産スタジアムで行われた、第四十回ジュニアオリンピックでは、B百員で日吉君(伊豆修善寺)、A三千員で県最高記録を持つ木村さん(静岡籠上)、C八百員で松本さん(清水ミズノS.C)がそれぞれ優勝を飾り、マツナガ君(浜松南部) 日吉君(伊豆修善寺) 矢川君(富士岩松) 久松君(富士吉原第二)の四百員リレーは東海新記録で二位、円盤投げの佐藤さん(浜松天竜)も県中学最高記録で三位など、あわせて十四種目で入賞することができました。

さらに新潟県で行われた国体でも、B千五百員で木村さん(静岡籠上)が一位、共通棒高跳びで山田さん(浜松天竜)が

五位に入賞しました。

これらの輝かしい成績の裏には、中学校現場の様々な制約の中で、日々、指導を続ける顧問の先生方、年三回の県合宿で丁寧な指導を下さるスタッフの先生方の姿があり、頭の下がる思いです。今後も指導者講習会等で情報を交換しながら、優秀な選手を育てていきたいと思えます。

最後になりましたが、本年度も中学生の大会運営にご協力下さった本協会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(中体連部長 鳥居俊秀)

高体連(全日制)陸上競技部

平成二十一年度を振り返って

四月、綾部前委員長より仕事を引き継ぎ、何とか一年を終えようとしています。私のような者が、一年やってこれたのは、県内高等学校陸上部顧問及び陸上競技協会の皆様のご支援ご協力があったからだとつくづく感じています。まずはこの書面をもって御礼申し上げます。

さて、高校のこの一年を振り返りますと、飯塚翔太君が大活躍した奈良総体での藤枝明誠高校の総合2位、世界ユース大会への金原莉沙さん(袋井高・やり投)の出場をはじめとし、多くの生徒がそれぞれの目標に向け頑張りを見せてくれた一年ではなかったでしょうか。しかし、総体での全体の競技成績を見ますと、陸上静岡と言われていた時代からは、寂しさは否めません。小中学校の指導者と連携を取りながら、選手の普及・強化をすることが求められています。高校の若手・中堅の指導者の中には、全国総体に初めて

選手を導いた指導者も多数出ています。このように、熱い思いを持って日頃指導に当たられている指導者は、ベテランから若手まで数多くいます。そのご苦労が実を結び、来年の沖繩総体に繋がっていただきたいと思います。

部活動、これは高校の中で大きな意味を持っています。高い競技成績を目標に、努力を継続していくことは、自分を成長させるために欠かせないことであります。結果的には目標まで届かず、悔しい思いをする生徒が大半かと思えます。しかしながら、同じ志を持った仲間と過ごした時間と経験は、何事にも代えることは出来ません。必ずやこの先の人生に繋がっていくものと、顧問のひとりとしては信じています。

是非、皆様方のお力添えで、素晴らしい高校生、素晴らしい競技者を育成していただけるようお願いいたします。

(高体連全日制委員長 望月勇志)

高体連(定通制)陸上競技部

本年度定通制では八月に国立競技場で開催された全国大会に四十四名を送りました。男子は昨年からの戦力が充実し、浜松大平台の梨本君が一〇〇m、二〇〇mで優勝し、選抜四×四〇〇mRと合わせて三冠を達成しました。梨本君は男子優秀選手にも選出され、四十一年ぶり二回目となる男子総合優勝の原動力となりました。二位には四〇〇m、四〇〇mHで池谷君(静岡中央)、選抜四×一〇〇mR、三位には壬生君(静岡中央)の走幅跳、三段跳が入賞しました。男子の入賞は十二を数え、トラックの部は全ての

種目で入賞し、二位に大差を付けて優勝しました。一方女子では二種目で三つの入賞にとどまり、総合でも下位に低迷しました。それでも男女総合では三位まであと四点に迫る四位となり、充実した大会となりました。

県大会の参加状況は、全国大会の予選を兼ねる春季大会で男子は例年並みの参加だったものの、女子の減少が進み、参加者のない種目もありました。秋季大会では男女とも学校数、選手数が減少し、特に女子では三分の一にまで減少しています。各校とも部員数の確保で苦勞されているとは思いますが、次年度も盛り上げていけるようお願いしたいと思います。

最後に、大会運営や審判等をお願いし、多大な協力を頂いている東部陸協・中部高体連他、関係各位にはこの場を借りて御礼申し上げますとともに次年度も御協力をお願いしたいと思います。

(高体連定通制委員長 浜田俊則)

クラブチーム紹介 「浜松陸上」

陸上競技を通して人間形成

クラブチームの設立は、平成五年から浜松市中区を拠点に市内全域の小・中高・一般選手より構成。

人数と競技力により「育成」「初心」「選抜」の三グループに分かれて、心技体のバランスと基礎練習を重点に置いて練習をしています。

年に一度、陸上競技場の清掃、冬季練習場の中田島砂丘での堆砂垣設置作業のお手伝い等、自分たちの練習場所での奉

仕活動を通して、練習場所の有り難味と、感謝する気持ちを持てるように活動しています。

個々の問題として、礼儀正しく、挨拶をすることが自然にできるように心がけています。まだまだ、できる子供は少ないのですが。

これからも、心技体の三位一体を目指して、日々の練習の中に取り組んで行き、人間形成と競技力の向上を一人でも多くの選手に指導出来るよう頑張つて行きたいと思えます。



全国大会出場者

- 山本雅也(浜松市東小学校五年)
- 全国小学生交流大会、男子百m予選
- 藤田桃加(浜松市相生小学校五年)
- 全国小学生交流大会、女子百m準決勝
- 建部カオリ(浜松市湖東中学校二年)
- 全日中選手権大会、女子百m準決勝
- 古橋弘貴(浜松市神久呂中学校三年)
- 全日中選手権大会、男子二百m予選
- 伴野侑輝(浜松市西部中学校三年)
- 全日中選手権大会、男子四百m予選
- 北原有理沙(浜松工業高校三年)
- 全国高校総体、女子百m準決勝
- 国民体育大会、女子百m準決勝
- 女子四×百mリレー四走準決勝

東海選手権大会出場者

- 石井優子(浜松陸上)
- 東海選手権大会、一般女子走幅跳三位
- 小学生男子、四×百mリレー二位
- (角正、山本、伊ヶ崎、河原、伊藤)
- 小学生女子、四×百mリレー二位
- (原、田畑、土射津、大竹)

(監督 福嶋泰治)

全日本実業団陸上

「スズキ準優勝」

岡山県陸上競技場で昨年九月下旬に開催された。世界陸上銅メダルの男子やり投げの村上幸史(スズキ)選手は連覇、女子やり投げの海老原有希(スズキ)選手は連続優勝。また、昨春スズキに入社した新人の鈴木義啓選手は男子二〇〇mで七位に入賞し、専門の三段跳び以外でも頑張り期待の選手である。その他スズキ勢は三千m障害の武田・中川両選手が三・四位に、砲丸投げでは村川選手が二位に棒高跳びは小野選手三位と結果を出し存在感・重量感あるチームである。対抗点では富士通が優勝、スズキは準優勝を果たしている。(広報・報道)

第十回わかふじスポーツ大会

(県障害者スポーツ大会)

本大会は、障害者スポーツの振興を図るとともに、障害のある人に対する社会の理解と認識を深め、障害のある人の自立と社会参加の促進に寄与することを目的としている。

九月二十日、陸上競技はエコパスタジ



県中学新人陸上大会

第十五回大会が静岡草薙陸上競技場で十月十日開催された。男子では伊豆修善寺中の日吉克美選手が共通百m(11秒17)、同二百m(22秒46)、四百mリレーに出場し、みごと三冠に輝いた。女子では清水ミズノSCの松本沙耶子選手が共通二百m(26秒22)と四百mリレーで二冠を果たした。またこの大会では七つの大会新記録が生まれ、将来が期待される。(広報・報道)



トキめき新潟国体

九月二十六日～十月六日、東北電力ビッグスワンスタジアム(新潟市)で第六十四回国民体育大会が開催された。陸上競技、天皇杯は84点で第四位、皇后杯は39点で第九位の成績で15種目入賞した。特に今回は少年男女が大活躍し、男子A百mの飯塚選手(藤枝明誠高校)・男子B走り幅跳びの松原選手(東海大翔洋高校)・女子B千五百mの木村選手(静岡籠上中学)らの優勝が光った。



県小学生陸上選手権大会

第三十八回大会が静岡草薙陸上競技場で十月十八日開催され、男女二十二種目の決勝を行った。男子では五・六年生二百mで有川湧貴(浜松河輪AC)選手、記録25秒56で優勝、また、同千五百mは会田圭吾(富士宮JC)選手が記録4分44秒24の好タイムで優勝した。女子では五・六年生百mで天城帆乃香(浜松河輪AC)選手が二位以下に大差をつけ記録13秒41で二連勝を飾った。また、同走り幅跳びでは篠田那帆(静岡葵AC)選手が4m87の県小学生タイ記録で初優勝をした。

高校新人陸上大会

○県大会、九月二十六～二十七日、静岡草薙陸上競技場で開催された。二日間で男女三十七種目の予選・決勝を行った。初日は東部地区の高校が十種目を制した。特に葦山は男子三千m障害(根橋徹選手)・女子百m(奥野由布子選手)・同千五百m(土屋優実選手)と三名の優勝者を出した。大会二日目も葦山勢は強さを発揮し、奥野由布子選手が二百m、土屋優実選手が八百m、互いに個人で二種目を制した。また、奥野・土屋選手が出場した千六百mリレーは3分52秒18の大会新記録で優勝。学校対抗でも一位を勝ち取った。

○東海大会、十月二十四～二十五日、名古屋瑞穂公園陸上競技場で開催された。本県勢は今回の大会で十三種目に優勝を果たした。
 一日目男子、四百m 伊藤卓(浜名)・千五百m 三湯雄基(浜松市立)・三千m 障害 渡辺大晃(吉原工)・棒高跳び 小林柊也(東海大翔洋)・やり投げ 浅田侑嗣(常葉菊川)・女子、百m 奥野由布子(葦山)・千五百m 土屋優実(葦山)・四百mリレー(浜名)・砲丸投げ 鈴木綾乃(磐田南)。
 二日目男子、八百m 川口大毅(葦山)・五千m 三湯雄基(浜松市立)・千六百mリレー(浜松西)・ハンマー投げ 高村竜麻(浜松商)。

(広報・報道)

浜松中日陸上カーニバル

(ファイナル大会)

十一月三日、今回で最後となる第二十八回浜松中日カーニバル招待陸上が、浜松市四ツ池公園陸上競技場で開催された。招待選手・一般・高校・中学・小学校等、年齢別32種目の予選、決勝を行なった。招待日本の本県勢、優勝者は次のとおりである。○男子やり投げ世界選手権銅メダリストの村上選手(スズキ)、○女子やり投げ世界選手権代表の海老原選手(スズキ)、○男子棒高跳び筑波大(磐田南高校出身)の川口選手らが最後の大会を優勝で飾り花を添えた。

駅伝コーナー

○県中学駅伝大会(第17回)

十一月十四日、エコパスタジアム(周回コース)を発着点に、男子六区間18・38km、女子五区間12・39kmのコースで行われた。
 大会結果

- | | | |
|----|------------|----------|
| 男子 | 第一位、浜松鹿玉 | (58分24秒) |
| | 第二位、御殿場富士岡 | (59分21秒) |
| | 第三位、富士 | (59分34秒) |
| | 第四位、吉田 | (60分06秒) |
| | 第五位、浜松天竜 | (60分35秒) |
| | 第六位、裾野東 | (60分36秒) |
| 女子 | 第一位、御殿場富士岡 | (41分28秒) |
| | 第二位、磐田城山 | (42分51秒) |
| | 第三位、浜松鹿玉 | (43分19秒) |
| | 第四位、静岡籠上 | (43分50秒) |

- | | |
|-----------|----------|
| 第五位、浜松浜名 | (44分55秒) |
| 第六位、浜松三ヶ日 | (45分08秒) |

○県高校駅伝(男子第61回女子第22回) 十一月七日、エコパスタジアム(周回コース)を発着点に、男子七区間42・195km、女子五区間21・0975kmのコースで行われた。

- | | | |
|----|----------|-------------|
| 男子 | 第一位、浜松日体 | (2時間11分40秒) |
| | 第二位、藤枝明誠 | (2時間12分38秒) |
| | 第三位、島田 | (2時間14分25秒) |
| | 第四位、加藤学園 | (2時間14分31秒) |
| | 第五位、浜北西 | (2時間17分40秒) |
| | 第六位、富士東 | (2時間17分56秒) |
| 女子 | 第一位、三島北 | (1時間12分36秒) |
| | 第二位、常葉菊川 | (1時間12分40秒) |
| | 第三位、浜北西 | (1時間13分12秒) |
| | 第四位、島田 | (1時間15分47秒) |
| | 第五位、葦山 | (1時間16分01秒) |
| | 第六位、浜松日体 | (1時間16分58秒) |

○東海高校駅伝大会

十一月二十二日、三重県松阪市(三重高校発着点)で開催された。今回、男子は記念大会で、藤枝明誠が三位入賞。すでに終了している各県の優勝校以外で最上位となり、東海ブロック代表として全国大会出場権を得た。

- | | |
|----|----------------------|
| 男子 | 第一位、上野工・三(2時間07分11秒) |
|----|----------------------|

県市町村対抗駅伝競走大会

2009年12月5日(土)、第10回記念、しずおか市町村対抗駅伝競走大会が、静岡県庁前をスタートし、草薙陸上競技場をゴールとする11区間42.195kmのコースで行われた。県下37市町(41チーム)すべてが参加し、師走の駿河路を駆け抜けた。前日の開会式では、10年連続エントリー選手(30名)を特別表彰した。また大会当日は公認審判員約430人と、各関係機関等の協力を得て総勢1600人が大会に携わった。今回は記念大会でもあり沿道の大声援はもちろんのこと、各市町の地場産品を集めた「夢逸品市場」も予想以上に盛大であった。結果は、市の部を静岡市静岡Aチームが2時間16分17秒で3年ぶり3回目の優勝。町の部は、長泉町チームが2時間19分06秒(大会新)で2年ぶり5回目の栄冠に輝いた。(文責：橋本美智夫)

～陸上マガジン2月号記事～

- 第二位、豊川工・愛(2時間08分25秒)
 - 第三位、藤枝明誠・静(2時間08分55秒)
 - 第四位、豊川・愛(2時間09分10秒)
 - 第五位、島田・静(2時間09分28秒)
 - 第六位、中京・岐(2時間09分49秒)
 - 第一位、豊川・愛(1時間09分32秒)
- 女子

—大会結果—

市の部

順位	ナンバー	チーム名	記録
1	13	静岡市静岡A	2° 16' 17"
2	26	浜松市西部	2° 17' 04"
3	7	御殿場市	2° 17' 55"
4	25	浜松市北部	2° 18' 12"
5	16	藤枝市	2° 18' 24"
6	24	浜松市中央	2° 18' 25"
7	10	富士市	2° 19' 20"
8	23	磐田市	2° 20' 28"
9	11	富士宮市	2° 20' 37"
10	9	沼津市	2° 21' 34"

町の部

順位	ナンバー	チーム名	記録
1	35	長泉町	2° 19' 06"大会新
2	33	函南町	2° 19' 51"
3	41	新居町	2° 21' 57"
4	34	清水町	2° 25' 29"
5	38	吉田町	2° 26' 08"
6	40	森町	2° 27' 10"
7	36	小山町	2° 28' 32"
8	29	河津町	2° 31' 11"
9	39	川根本町	2° 33' 10"
10	30	南伊豆町	2° 34' 11"

- 第二位、三島北・静(1時間11分14秒)
 - 第三位、常葉菊川・静(1時間11分47秒)
 - 第四位、浜北西・静(1時間12分09秒)
 - 第五位、津商業・三(1時間12分50秒)
 - 第六位、中京大中京・愛(1時間12分53秒)
- (広報・報道)

想いの駅伝

元常任理事・元中部審判委員長 小林 進

読売新聞社主催第六回東京大阪駅伝が一九六三年十一月二十六日から十二月一日まで開催された。静岡選手団は、前日まで第一回大会第二位、第二回大会第三位、第三回大会第三位、第四回大会第二位、第五回大会第三位と優勝が手に届く所で無念の涙を飲んで来た。今年こそは優勝をと役員選手一同一丸となって大会に臨んだ。当時の選手団は、次の通りである。

監督 浅倉 茂(国産電気)

マネージャー 中田豊七(鈴木自動車)

小林 進(国鉄静岡)

選手 塩塚忠義・荒川 功・松本偉八

佐藤 清・井坂末雄・野呂 武

戸田平三郎・佐川正昭・三次征洋

鈴木勝昭 福山俊文・川村久雄

赤塚昭雄・土居直国・佐野 勲

堀野耕一・前田秋夫・貞石昭雄

山岡 博・富満一夫・土屋伴彦

大会第一日目は東京箱根湯元間で四位となり悔しい思いをした。浅倉監督も明日から頑張ればいんだと励ましてくれた。この日一区で松本偉八が区間賞。

第二日目は箱根湯元静岡間で郷土入りの足掛かりをつけ、井坂・山岡・川村・前田・荒川・貞石で首位を奪回してゴール。川村、前田、荒川の区間賞が光る。

第三日目静岡豊橋間で塩塚、野呂、佐

藤、松本の区間賞で首位を護る。

第四日目は豊橋岐阜間で、昨日までの首位をそのまま、貞石が区間二位ながら総合一位で荒川にタスキを渡し、その後川村・鈴木・赤塚・福山・前田・土居・佐野で首位を渡さず岐阜県庁前ゴール。二位神奈川に八分の差を開く。第五日目、佐藤・前田・戸田・山岡・松本・三次・野呂・鈴木で首位を堅持する。特に戸田、松本、野呂はそれぞれ区間新記録で初優勝の望みをきたす。最終日貞石・荒川・川村・佐野・福山・土居・井坂・赤塚・塩塚で初優勝を飾る。総合成績一位三十四時間一五分四五秒で見事なものであった。二位神奈川との差は約十七分だった。

この日も荒川・川村、福山、赤塚が区間新記録で大会に花を添えた。初優勝の感激は言葉に表せない。チームワークが第一の勝因だ。選手は日頃の力を十分出し、心から感謝して喜びとします。

六日間を通して最高のレースが出来た事は、監督の指示、コーチ陣の活躍であり、選手個々がそれぞれの力を十二分に発揮した事である。

静岡が優勝するまで

- (大会数) (第一位) (第二位) (第三位)
- 第一回 神奈川 静岡 長野
- 第二回 東京 神奈川 静岡
- 第三回 東京 神奈川 静岡
- 第四回 神奈川 静岡 東京
- 第五回 東京 三重 静岡
- 第六回 静岡 神奈川 長野

筆者・藍綬褒章受章 平成十六年十一月十五日

(広報委員会)

全国都道府県対抗駅伝大会

一月二十四日、男子第十五回大会（広島市平和記念公園前発着点）が開催された。本県チームは、今回第一七位（二時間二三分六秒）と記録向上、過去の大会からみると着実に力を伸ばしてきている。

また同月十七日には女子第二十八回大会（京都市西京極陸上競技場発着点）が開催された。本県チームは第九位（二時間一八分一七秒）とこれまでの過去最高タイムをマークし、関係者や県民に明るい材料を提供した。両チーム、スタッフ・選手の皆さんお疲れさまでした。

（広報・報道）

本県選手の区間成績

— 男 子 —			区間 順位	通過 順位
▽1区 (7* ₀)	鳥田直輝 (浜松日体高)	20分50秒	24位	24位
▽2区 (3* ₀)	野村将汰 (浜松麗玉中)	9分1秒	23位	21位
▽3区 (85* ₀)	北村昌史 (スズキ)	24分56秒	28位	23位
▽4区 (5* ₀)	田村拓真 (加藤学園高)	14分57秒	25位	24位
▽5区 (85* ₀)	片川準二 (鳥田高)	25分28秒	17位	19位
▽6区 (3* ₀)	渥美良明 (静岡高松中)	8分57秒	13位	19位
▽7区 (13* ₀)	山下伸一 (滝ヶ原自衛隊)	38分57秒	26位	17位

— 女 子 —

区間 順位	通過 順位	選手	所属	タイム
▽1区 (6* ₀)	26位	谷 奈美	(ユニバーサルエンターテインメント)	19分45秒
▽2区 (4* ₀)	35位	井上 藍	(城西大)	13分41秒
▽3区 (3* ₀)	27位	木村友香	(静岡籠上中)	9分22秒
▽4区 (4* ₀)	24位	萩原歩美	(常葉菊川高)	13分18秒
▽5区 (4.1075* ₀)	25位	佐野知美	(常葉菊川高)	13分54秒
▽6区 (4.0875* ₀)	23位	坂本美咲	(三島北高)	13分20秒
▽7区 (4* ₀)	22位	前島彩伽	(浜北西高)	13分13秒
▽8区 (3* ₀)	16位	田中結女	(御殿場富士岡中)	9分46秒
▽9区 (10* ₀)	9位	勝又美咲	(第一生命)	31分58秒

日本陸連主催 中学生陸上競技、静岡教室開講

昨年八月十六日、エコパを会場に陸上競技静岡教室が開講された。日本陸連から派遣役員・陸連事務局計七名、県陸協理事長以下五名が本部役員スタッフとして指導に当たった。趣旨はスポーツの基本となる「走」「跳」「投」の運動を正しく学んでもらうために、都道府県陸上競技協会が「陸上教室」を開催したものである。

内容は、(一)理論研修(競技者育成プログラムについて)、(二)実技研修(基本の運動・動きづくり、種目別実技)を陸連

派遣講師(普及育成委員会)六名の指導者によって終日行われた。参加は希望した県下二十校の中学から百五十名を越す受講生が集まり熱心に学んだ。

(広報)

陸連情報

投てき合宿 2/27、村上選手ら
浜松四ツ池・中田島砂丘で

編集後記

平成二十二年、新しい年を迎え、陸協会報、第八号をお届けします。執筆にあたり静岡陸協役員・審判員・関係者の皆様に御礼を申し上げます。

県陸上界も去年八月の世界陸上ベルリン大会、スズキの村上幸史選手(男子やり投げ)の銅メダルや、十月のトキメキ新潟国体での少年男女の大活躍は、素晴らしいものでした。本年もジュニアから中・高体連、実業団と各層の活躍を期待し、よい話題を数多く提供したいと思えます。

〔編集〕

県陸協広報委員会・県陸協事務局

○橋本美智夫(編集・文責)

○水谷陽介(編集委員)

○片岡佳美(編集委員)

○矢辺 進(編集委員)

○亀山健士(編集委員)

○松井清和(編集委員)

○写真(陸協 大多和・橋本)

(印刷・株エスケービー)



四大学女子記録会

Photograph

- 四大学女子記録会(御殿場)
- 中日カーニバル(浜松)
- 県高校新人陸上(エコパ)
- 県中学生新人陸上大会(草薙)
- 県小学生選手権(草薙)
- 県高校駅伝大会(エコパ)
- 県中学駅伝大会(エコパ)
- しずおか市町村対抗駅伝(静岡)



—四大学女子記録会—

—土曜人権大会—

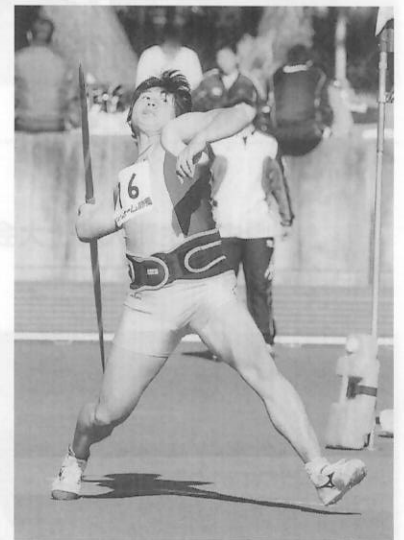
部門別
32種目
実施



—中日カーニバル
ファイナル大会—



28年の
歴史に
フィナーレ





更に
ステップ

—県高校新人陸上—



—県中学生新人陸上大会—





— 県小学生選手権 —



— 県中学駅伝大会 —



— 県高校駅伝大会 —





県高校駅伝大会



高低差約四十メートルのコース
初冬の駿河路 一本のタスキに夢をつなぐ選手たち



優勝



第10回しずおか市町村対抗駅伝 記念大会
（第11回よりは市町対抗となる）

